三者関係の地位勢力に関する社会的ネットワークスキーマ

一般的信頼、孤独感との関連に基づく検討

○五十嵐 祐¹

(¹名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

キーワード：社会的ネットワークスキーマ、勢力、トライアド

Social network schemata for power in triads: focusing on loneliness and generalized trust

Tasuku IGARASHI¹

(¹Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University)

Key Words: social network schemata, power, triad

本研究の目的は、他者一般への信頼（一般的信頼）や孤独感と、資源の交換についての社会的ネットワークに関する知識（社会的ネットワークスキーマ）に反映される地位勢力への選好との関連を検討することである。他者への経済的援助や心理的援助など、社会的ネットワークにおける経済的・心理的資源の交換は、人間の社会活動を支える重要な基盤のひとつである（Ekeh, 1974）。資源の交換は、一般的信頼を潤滑油として行われ、地位としての勢力（positional power）を高める（Frost, Stimpson, & Maughan 1978）。このように、援助の文脈では、信頼が地位勢力を高め、地位勢力が信頼を高めるという循環が生まれやすい。その結果、一般的信頼の高い人は、援助を与える側として、社会的ネットワークスキーマに高い地位勢力への選好が反映されている可能性が考えられる。

一方、心理的資源の援助は所属欲求を充足し（Cacioppo & Patrick, 2008）、孤独感の低減に重要な役割を果たすものの、孤独感の高い人は他者とのコミュニケーションに不安を抱いている（Gardner et al., 2000）。したがって、孤独感の高い人は、援助を受け取る側として、社会的ネットワークスキーマに低い地位勢力への選好が反映されている可能性がある。本研究では、三者間の交換関係を網羅したトライアド・センサス（Holland & Leinhardt, 1970）を社会的ネットワークスキーマの指標とし、これらの予測を検討する。

方 法

調査対象 goo リサーチのインターネット調査に参加した 1,020 名（男女各 510 名、平均 36.1 歳）を分析対象とした。
調査項目 (1) 一般的信頼：山岸（1998）の一般的信頼尺度から 3 項目を抜粋して用いた（5 件法）。(2) 孤独感：孤独感尺度短縮版（Hughes, Waite, Hawley, & Cacioppo, 2004）の 3 項目を用いた（3 件法）。(3) 地位勢力に関する社会的ネットワークスキーマの測定：Holland & Leinhardt (1970) で示された 16 のトライアドから、三者の位置関係が等しい 3 つのトライアド（300, 003, 030C）を除いた 13 のトライアドを用いた（Fig. 1）。トライアドの 3 ケタの数字は順に、三者間の相互選択の数、非対称な関係の数、つながりのない関係の数を意味し、末尾の C は円環形、D は下方形、U は上方形、T は推移形を意味する。トライアドの各ノードには A、B、C とラベルを振り、ノード間の資源の交換関係を矢印で表した。ノードの位置は、(a) 資源を受け取る、(b) 資源を与える、(c) 資源を相互に与えあう、(d) 孤立の 4 つのパターンが設定されていた。

教示では、13 のトライアドの図を 1 つずつ呈示し、各図について、知人間（三者）で図のような関係になった場合、自分にあてはまると思われる A、B、C のいずれかの位置を選択するよう求めた。資源の交換に関しては、心理的援助条件では『A→B』は、『A さんは B さんに相談する（経済的援助を行う）』ことを意味します」と説明し、経済的援助条件では（）内の表現で説明を行った。

分析では、回答者がそれぞれのトライアドにおいて選択し

たノードの位置をもとに、13 のトライアド全体における入次数（資源を受け取った数）、出次数（資源を与えた数）、相互選択数（資源を相互に与えあった数）、孤立数の合計を算出した。なお、手続上、心理的援助条件と経済的援助条件では入次数と出次数の解釈が逆になり、相談することは資源を受け取る入次数に対応し、経済的援助を行うことは資源を与える出次数に対応することに留意する必要がある。

結果と考察

各変数の記述統計量および変数間の相関係数を Table 1 に示す。一般的信頼が高い人ほど、心理的援助条件では相互選択数が多い傾向がみられたが、孤立数、入次数、出次数と一般的信頼との間には有意な関連がみられなかった。また、経済的援助条件では、一般的信頼が高い人ほど入次数が少なく、出次数が多い傾向がみられた。これに対して、孤独感が高い人ほど、心理的援助条件では孤立数と出次数が多くなり、相互選択数と入次数が少なくなっていた。一方、経済的援助条件では、孤独感が高い人ほど入次数のみが多くなっていた。

まとめると、一般的信頼の高い人は、自分が他者と互恵的な心理的援助を行っており、経済的な援助については他者に与えることが多いと認知していた。このことは、一般的信頼が高い地位勢力への選好を促す可能性を示唆する。これに対して、孤独感の高い人は、他者に相談を行うことが多い一方で、三者関係の中で孤立し、他者からの相談を受けることは少なく、相互に相談を行うような二者関係をもたないと認知する傾向があった。また、経済的な援助については、他者に援助を求める傾向のみがみられた。このことは、孤独感の高い人が三者関係において低い地位勢力への選好をもつ可能性を示している。今後は、地位勢力に関するこれらの社会的ネットワークスキーマが、現実の実際の社会的ネットワーク構造と関連しているかどうかを検討する必要がある。

Fig. 1. 本研究で呈示したトライアド

Table 1. 各変数の記述統計量と変数間の相関係数

	M	SD	Range	一般的 信頼	孤独感	相互選 択数	入次数	出次数	孤立数
一般的信頼	2.85	(0.73)	1-5		-0.12**	0.07	-0.14*	0.14*	-0.08
孤独感	1.81	(0.58)	1-3	-0.21**		-0.07	0.10*	-0.09	-0.03
相互選択数	6.80	(1.78)	0-10	0.10*	-0.25**		0.03	-0.30**	-0.32**
入次数	7.37	(4.00)	0-14	-0.04	-0.10*	-0.09*		-0.89**	-0.03
出次数	4.99	(3.74)	0-14	0.05	0.09*	-0.05	-0.90**		-0.11*
孤立数	0.97	(0.89)	0-2	-0.08	0.28**	-0.57**	-0.08	-0.05	

** $p < .01$, * $p < .05$. 心理的援助(行列下三角部分): $n = 504$; 経済的援助(行列上三角部分): $n = 516$.